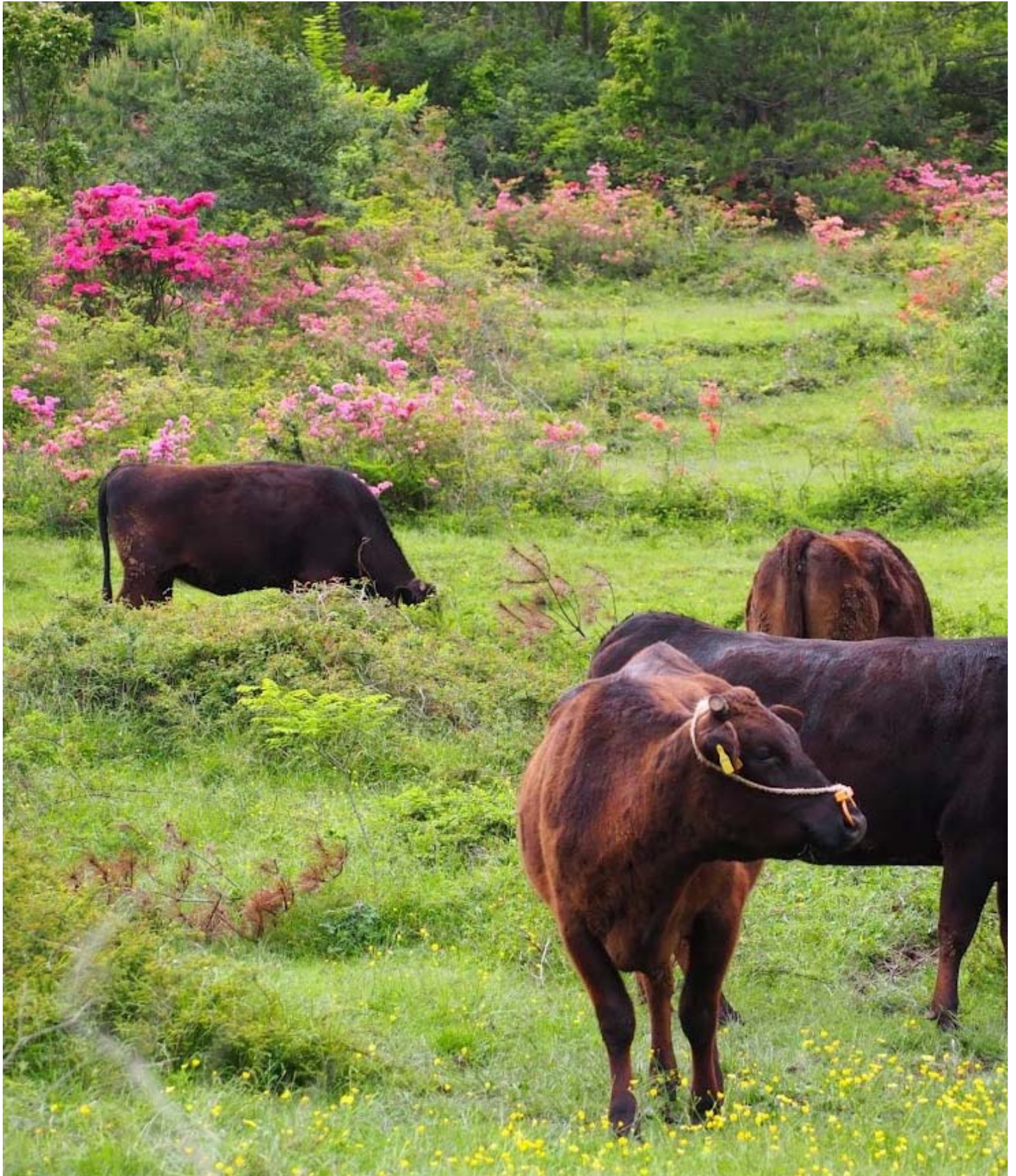


草原がつなぐ人・自然・文化

# 全国草原再生ネットワーク

ニュースレター vol.51 (Jul. 2022)



奥雲仙田代原草原のミヤマキリシマと放牧牛（木下美津子氏提供）

## ネットワークの総会が開催されました

一般社団法人全国草原再生ネットワークの第2回定期総会が、2022年7月6日に島根県大田市内で開催されました。新型コロナウイルスの感染状況がおさまらないことから、今回も対面での総会は見送り、基本的には書面での表決とし、数名の地元会員の出席のもと、開催されました。

現在の総会員数55名のうち、本人出席が3名、委任状が12名、書面表決が28名の、計43名の出席でした。主な議案は、2021年度の事業報告と決算報告、理事と監事の任期満了に伴う改選、2022年度の事業計画および予算でした。いずれの議案に対しても、全員の賛成が得られ、可決されました。

2021年度の事業報告の中では、2021年9月に静岡県東伊豆町で、「第13回全国草原サミット・シンポジウム in 東伊豆」が無事に開催されたこと、その中では新しい試みとして、蒜山高原、阿蘇で分科会を行い、オンラインを用いたハイブリッド方式を用いたこと、などが報告されました。報告書の発行、実行委員会の解散も行われ、残すところは、次回開催地の選定と引き継ぎとなりました。

2022年度の事業計画の中では、昨年度、全国草原の里市町村連絡協議会（全国草原の里自治体ネット

ワーク）と協力して実施した「未来に残したい草原の里100選」について、選定、広報、普及などの取り組みを支援していきますが、同協議会からの受託として、当ネットワーク独自でも広報や普及に取り組むことになりました。具体的に行う事項としては、昨年度選考された34の草原の里を紹介する冊子を発行したり、授与式を兼ねたシンポジウムを開催したりする予定です。また、次の募集も秋頃には行う予定です。まだ応募されていない地域からの応募を期待していますので、会員のみなさまにも、ご協力をお願いいたします。

なお、総会の詳細については、総会に先立ち送付しました資料一式、総会後にメールで送付しました総会議事録をご覧くださいと思います。

総会の前に開催しました理事会では、対面での総会の開催を希望する声も聞かれました。年に1回の総会の場が、会員同士のコミュニケーションの場として有益であり、合って話をするのが楽しみであるとのことでした。このようなご意見も承っておりますので、対面での総会が開催できる日を楽しみにしております。

### 未来に残したい草原の里100選フォーラム（仮称）のお知らせ

「未来に残したい草原の里100選」において、全国から34の草原の里が選定されました。このたび、授賞式を兼ねたフォーラムを、全国草原の里市町村連絡協議会（全国草原の里自治体ネットワーク）と協力して、開催することとしました。ライブ配信を予定しておりますので、詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。

【期日】2022年10月18日（火）13:00～17:00

【場所】東京都内（調整中）

【主催】全国草原の里市町村連絡協議会 【協力】（一社）全国草原再生ネットワーク ほか

【内容】第一部 認定証授与式（全草原の里に認定証をお渡しします）

第二部 草原の里活動事例発表会・意見交換会

## 各地からの報告

### 奥雲仙田代原における草原保全 (木下美津子：NPO 法人奥雲仙の自然を守る会)

雲仙天草国立公園の中に、地元の人々から「奥雲仙田代原」と呼ばれる地域がある。そこには千々石断層のずれにより形成された盆地の草原が広がり、江戸時代より島原藩の財政を支える牛馬の放牧が行われ、雲仙温泉で賑わった観光地とともに発展を担ってきた歴史ある地域である。

近年の畜産業の減少に伴い、草原の維持が難しくなり森林化が急速に進んでいる。それに伴って雲仙地域を代表する希少なミヤマキリシマが減少している。

ミヤマキリシマは、九州の火山地帯特有のツツジで、牛はミヤマキリシマの葉を食べないため、雲仙地域の放牧地にはミヤマキリシマ群落が多く存在した。その中でも、唯一現在も放牧が行われている田代原草原は、雲仙の原風景を残す貴重な地域である。

そこで、2005年に地元の住民や有志により「奥雲仙の自然を守る会」を設立し、減少した牛の代わりに人の手による下草刈りや除伐作業などの保全活動を行うようになった。環境省や林野庁の協力により、地域の小学校などの自然体験や環境教育の実践の場としての活用を始めるようになった。

2016年からは、長崎大学環境科学部のフィールドワークの授業を田代原で行うようになり、田代原草原はミヤマキリシマを含む貴重な植物や昆虫が多数生息する科学的価値も次第に明らかになってきた。

2017年に林野庁レクリエーションの森の「美しの



森」に選定された。そのことにより、景観を整備し、観光や教育の場として周知や利用を促す事を目的として、長崎県や雲仙市、島原雲仙農業協同組合と「雲仙田代原レクリエーションの森管理運営協議会」を立ち上げ、2018年に長崎県森林管理署と協定を調印した。その結果、大規模な修景伐採や新規の看板を設置する事が出来た。隣接する田代原キャンプ場と田代原トレイルセンターに登山や散策に訪れる人々が、春のミヤマキリシマをはじめ、初夏のヤマボウシ、秋の紅葉、冬の霧氷など田代原草原の

四季折々の魅力ある風景を楽しむ事ができるようになった。放牧された牛は樹木が減ることにより活動の範囲を広げることができ、今後の草原回復へ向けての大きな成果にもつながった。これらの活動の結果、2018年・2019年、2021年に日本自然保護大賞入賞、2019年あしたのまち・くらしづくり活動賞奨



励賞、レクリエーション協会会長賞を受賞した。

今後も、地域住民への保全活動や自然体験への参加を呼びかけ、学校や企業など協働機関を増やし、地域住民と一体となり、かつての田代原草原の風景を取り戻す活動や環境教育の取り組みを継続していく。



## 和歌山県生石高原での茅刈り参加報告

(太田陽子：NPO 法人緑と水の連絡会議)

2021年12月に、和歌山県生石高原にて茅刈りを体験しました。和歌山大学の「むすび屋弥右エ門茅葺きプロジェクト」が主催する「生石高原ススキの刈り取り会 2021」での活動でした。このプロジェクトは和歌山大学の授業プログラムから始まったそうで、和歌山県内でゲストハウスを主宰する豊原弘恵さんの全面的な協力のもと推進されていました。

生石高原は生石高原県立自然公園内にあり、紀美野町と有田川町にまたがる山頂草原です(写真1)。最高峰は生石ヶ峰(870m)で、面積約13haのススキ草原が広がっています(紀美野町HPより)。スス

キの穂が見られる秋には大勢の観光客が訪れます。生石高原での火入れの起源は不明ですが、近年の山焼きは生石高原観光協会、紀美野町、有田川町が主催し、平成15年に始まりました(和歌山県HPより)。火入れ面積は約9haで毎年3月中旬～下旬に行われていましたが、2019年は強風のため、その後の3年間は新型コロナウイルス感染症拡大防止等の理由で実施されていません。現在、NPO法人「生石山の草原保存会(以下、保存会)」が、遊歩道の管理や美化活動、希少植物等の保護、環境学習支援、草原に侵入する樹木等の刈り取りに加え、山焼きの



写真1：秋の生石高原



写真2：茅を括る作業(中村巴菜氏撮影)



写真3：集まった茅束（中村巴菜氏撮影）

中止に伴ったススキの刈払いと除去等に取り組んでいます。

和歌山大学の学生さん達はこの保存会とも良好な関係を築きつつ、茅葺きの材料調達のための茅刈りを2019年から始めたそうです。「ススキの刈り取り会」というイベント名も保存会の行事名を継承しています。一般募集を始めたのは2020年からだそうです。行事の運営や広報も学生さんが行い、参加者も学生さんが多いからか、SNSが最大限活用されていたり、音楽をかけて楽しく作業したり、ポーズをつけて写真を撮ったり、私が普段参加する保全活動とは違った雰囲気でした。この日は和歌山大学の学生さん以外の参加者は2人だけでしたが、他の日程ではさらに多くの参加者があったようです。

最初の挨拶の後、スタッフを含め慣れた学生さん達はそれぞれに作業に入っていました。私を含む初参加2名は、前述の豊原さんが具体的かつ的確に刈り取り作業のコツを教えてくださいました。茅（ススキ）は草丈も生え方も一様ではないので、できるだけ真っ直ぐに生えている一群を探すこと。茅を束ねて脇で抱えるように持ち、スッと引くように刃を当てること。切り口に気をつけること。学生さん達は鎌の持ち手にラケットのグリップテープを巻いたりして、作業しやすいように工夫していました。私が一番楽しかったのは茅を「すぐる」作業でした。刈った茅がある程度の束になったところで、鎌の背の方で茅束を漉くようにして、丈の短いものやススキ以外の草を取り除きます。どんどん整っていく茅束を見るのが快感でした。

刈った茅は同じくらいの長さのものを少しずつ貯めていき、両手で一抱えくらいの大きさになったところで、束を縄で括る作業になりました。括るのは



写真4：茅の保管場所

根元と真ん中、穂先の3ヶ所です。根元から通して一度締めた縄をずり上げていくのですが、それが私にはなかなか難しく、上手だった他の参加者にお任せすることになりました（写真2）。学生さんに聞いてみると、刈るのが得意な人も括るのが得意な人もいて、自分の得意な工程だけをやり続ける人もいれば、すべてを自分でする人もいるとのこと。その自由さが良い感じでした。

3ヶ所括る途中で根元を揃えると、束はさらに美しくなりました。長くて真っ直ぐな茅を刈ってきて綺麗に整え、きちんと結んで、大きな束ができたときの満足感！この感覚が茅刈りの醍醐味なのかもしれません。また、作業成果は茅束の数として目に見えます。こうなるとたくさん茅束を作りたいのが人情。刈るという行為も茅束を作るための収穫作業のように思え、より良い茅を求めて歩き回りました。最初はススキと言っていた私も、いつの間にか「茅」と呼ぶようになり、茅に混じるゴマノハグサ（環境省の絶滅危惧Ⅱ類）等もそのうち「邪魔」と感じるようになっていました。この日の午前中の茅束は数名で作業して合計15束程度でした（写真3）。

午後からは、それまでに貯めてあった茅束を茅葺き作業現場近くの保管場所に運ぶ作業に同行しました（写真4）。2020年度は12月～翌年2月の茅刈りで900束程度を集めたと言いましたが、2021年度は12月～翌年1月で516束を集めたそうです（和歌山大学むすび屋弥右エ門茅葺きプロジェクトHPより）。

最近、各地で学生さんの主導による茅葺きのプロジェクトを耳にするようになりました。現場でお会いする茅葺き職人さんも若い方が多いです。草原の

スキを茅葺きにするのは資源の使い途として非常に有効であることは言うまでもありませんが、若い学生さん達が茅葺きをきっかけに草原に親しみ、草原の保全等にも関心を持ってもらえるのはとてもうれしいことだと思いました。

私が関わってきた山口県秋吉台の草原では、現在は茅の利用はなく、茅刈りや茅葺きは未知の世界でした。今回の茅刈り参加は非常に良い経験になりました。

当日お世話になった豊原さん、中村巴菜さん、参加のきっかけをいただいた飛詰峻さんに、この場を借りてお礼申し上げます。2022年4月29日、生石高原の茅を使った茅葺き屋根のおむすび屋さんがオープンしたそうです。クラウドファンディングの返礼品として「おむすび券」をいただいていますので、茅葺き屋根を眺めながらおむすびを食べる日を楽しみにしているところです。

**つれもてスキ  
刈り取らん?**  
-生石高原スキの刈り取り会2021-

青い空、眩しいひかり、多くの生き物、そして大草原。  
多くの方から愛される美しい生石高原は、  
実は毎年のスキの刈り取りによって守られています。  
皆さん、このスキを「見るだけ」で終わっていませんか？  
壮大な自然の中で、地域の人や学生とついに「スキの刈り取り」してみませんか？

9:20~15:30 at 生石高原  
開催日程：12/4, 5, 12, 18, 25 1/23, 30 2/6, 12, 19, 26  
お申し込みは前週の金曜日まで！車での送迎可能です。ご相談ください！

Instagram: musubi\_yauemon3  
お問い合わせ先: shikouan.04@gmail.com  
主催: NPO法人 生石山の草原保存会

詳細はこちらからお申し込み可能！  
Instagram DMでもお申し込み可能！

**開催日程**

12月	1月	2月
4日(土)	23日(日)	6日(日)
5日(日)	30日(日)	12日(土)
12日(日)		19日(土)
18日(土)		26日(土)
25日(土)		

3月5日(土) 予備日

**注意事項**

- 当日は 9時20分 生石高原に集合(駐車場あり)
- 本人確認のため学生は学生証、それ以外の方は身分証明証のご提示をお願いいたします。
- 当日は鎌を使用するため、小学5年生から中学3年生は保護者同伴をお願いいたします。なお、小学4年生以下の方はご参加頂けません。
- 当日は、動きやすい服装(長袖・長ズボン、動きやすい靴、軍手、タオル)をお願いいたします。鎌の貸し出しは行いません。水分補給も行ってください。
- 現地までの交通費は自己負担となります。
- お昼は「山の家おいし」でとりますが、昼食代は各自負担となります。(参加費は不要です)
- 各イベント開催の最大募集人数は10人です。お住まいの場所にもよりますが、送迎可能です。

**お申込方法**

下のQRコードを読み取り、必要事項をご記入のうえ、「送信」をお願いします！

InstagramのDMでのお申込、ご質問も受け付けております。

Instagram: musubi\_yauemon3  
お問い合わせ先: shikouan.04@gmail.com

お申込は各日程、前週の金曜日まで！

## 草原をめぐる動き (2022年7月~2022年10月)

- 7/2 自然観察交流会 谷地坊主の観察会 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 7/2 八幡湿原夏の植物観察会 (夏) (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)
- 7月上旬 夏休み前の遊歩道の草刈り (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 7/13 夏のササ刈り (場所: 兵庫県神戸市 東お多福山、連絡先: 東お多福山草原保全・再生研究会)
- 7/16-17 防火帯の刈払いとビオトープづくり (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)
- 7/23 夏のボランティアガイド (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)  
7/24, 7/30, 7/31, 8/6, 8/7 も開催
- 7/25 奥雲仙・田代原草原 裏山の奇人とゆく生きもの観察会 (場所: 田代原トレイルセンター、連絡先: NPO 法人奥雲仙の自然を守る会)
- 7/28 月例観察会 アサギマダラに会えるかも? (場所: 兵庫県神戸市 東お多福山、連絡先: 東お多福山草原保全・再生研究会) 8/20, 9/22 も開催
- 7/30 刈払機安全講習会 (場所: 熊本県阿蘇市 農村公園あびか北側駐車場、連絡先: 公益財団法人阿蘇グリーンストック) 8/7, 8/11, 8/23 も開催
- 8/6 自然観察交流会 マルハナバチ調べ隊 2 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 8/21 野焼き支援ボランティア初心者研修会 (場所: 熊本県阿蘇市 阿蘇草原保全活動センター草原学習館、連絡先: 公益財団法人阿蘇グリーンストック)
- 9/3 マルハナバチ調べ隊 2 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 9/11 深入山の植物観察会 (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)
- 9/17 霧ヶ谷湿原の植物観察会 (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)
- 9/22 秋の七草観察会 (場所: 島根県大田市三瓶山西の原、連絡先: 島根県立三瓶自然館)
- 9/28 東お多福山 秋のモニタリング (場所: 兵庫県神戸市 東お多福山、連絡先: 東お多福山草原保全・再生研究会)
- 10/1-2 ミズナラ林の間伐と遊歩道整備 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)
- 10/1 自然観察交流会 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 10/29-30 上ノ原の茅刈り・茅刈検定 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)
- 10/31-11/6 上ノ原の茅刈りウイーク (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)
- ※予定が変更になる場合があります。上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

### 全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol. 51 2022年7月号

一般社団法人全国草原再生ネットワーク事務局  
〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 378-14  
大田市ゲストハウス雪見院内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-86-8899

【編集後記】新型コロナウイルスの感染拡大にともない、オンラインでの会議や書面決議などが普通になっています。一方、理事さんからの意見にもあったとおり、実際にお目にかかってお話を伺ったり、わいわいと話をしたりすることのメリットも、あわせて感じる今日この頃です。会員のみなさんが集まり、情報交換ができる日が来ることを願っています。